



10月の柑橘園管理



果 樹
山下 俊二
下島農指導センター
080-1729-1632

1. 病害虫防除

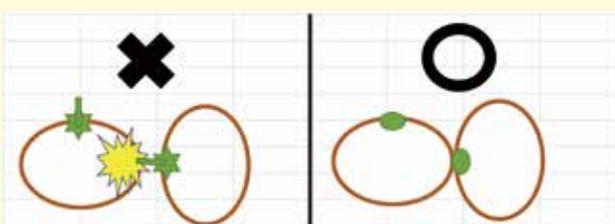
対象品種	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数		使用回数		備考
				温州	中晩柑	温州	中晩柑	
中晩柑	黒点病	ナティーボフロアブル	1,500 倍	前日まで		3回以内		
全品種	カメムシ	スタークル顆粒水溶剤	2,000 倍	前日まで		3回以内		発生時
		Mr. ジョーカー水和剤	2,000 倍	14日前		2回以内		
全品種	ミカンハダニ	スターマイトフロアブル	2,000 倍	7日前まで		1回		発生時
		ダニコングフロアブル	3,000 倍	前日まで		1回		
		コロマイト水和剤	2,000 倍	7日前まで		2回		

○温州みかん収穫対策

収穫前には、貯蔵病害の薬剤を散布し、腐敗果の抑制に努めましょう。

また、みかん収穫時はヘタを削ぐように2度切りし、果実同士のキズ防止に努めましょう。

対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数		使用回数		備考
			温州	中晩柑	温州	中晩柑	
貯蔵病害	ペフラン液剤25	2,000 倍	前日まで		3回	2回	
	ベンレート水和剤	4,000 倍	前日まで		4回	2回	



2. 温州みかん着色促進及び浮皮防止 (早生・普通温州)

回数	時 期	薬剤及び希釈倍数
1回目	10月上～中旬 (2～3分着色時)	サルファーソル 400倍 加用 シリカプロー 1,000 倍
2回目	10月中～11月上旬 (5～6分着色時)	サルファーソル 400倍 加用 シリカプロー 1,000 倍

3. 河内晩柑の落果対策

落果防止効果を高めるため、果実のヘタ部分に良くかかるよう丁寧に散布を行いましょう。また、落果の一因として寒波が挙げられますので、寒波が来る前に散布を徹底して下さい。事前に硫酸を10a当たり1袋施肥することで樹勢維持につながります。

回数	時 期	薬剤及び希釈倍数	倍 数
1回目	1～2分着色時	ターム水溶剤	1,000倍
2回目	4～5分着色時	マデックEW	2,000倍

※マデック1回散布の時は、1～2分着色時に行いましょう。

4. 収穫後対策 (極早生温州)

収穫後はマルチ除去を行い、まずは水戻しを行いましょう。その後、お礼肥と葉面散布を行い樹勢回復に努めましょう。

時 期	方 法	薬剤及び希釈倍数	倍数及び袋数	備 考
収穫後	葉面散布	・アミノジューシーN14 ・尿素 ・神協スピリッツ	500 倍	いずれかを使用
	お礼肥え	ハイヤ1号	4袋	10a 当たり



子牛の第1胃(ルーメン)の発達の重要性について



畜 産
井上 正一
黒毛産肉検定センター
080-1729-1626

子牛は成牛になるまでは、ルーメンから第4胃までの4つの消化器官があります。生まれたばかりの子牛のルーメンおよび第2胃は無菌状態で、消化管としての機能は持っていません。ルーメンの占める割合は生後1週間では25%ですが、成牛になると80%にも増加します。逆に、第4胃は生後1週間では60%を占めていますが、成牛になるとわずか7～8%を占めるだけになってしまいます。第2と第3胃の占める割合は、子牛から成牛になるまでほとんど変化しません。したがって、子牛を育成して生産性の高い成牛にするためには、ルーメンを大きくさせる必要があります。

生後1週間で消化能力を持っている胃は第4胃だけです。初乳を含めミルク代用乳などを給与すると、第4胃に流出します。第4胃には流出したミルクは、蛋白質分解酵素により凝固し、ゆっくりと小腸内で消化されます。とくに初乳が第

4胃で凝固することは非常に重要です。その理由は生後数日間は小腸の消化酵素の働きが十分でないため、消化しきれずに下痢を発症させてしまうからです。

生まれたての子牛のルーメンは消化機能を持っておりません。子牛のルーメンの発達はルーメン壁の筋肉を厚くすることと同時に繊毛を成長させ、消化機能を持つ胃にすることです。そのためには、穀類の給与が非常に重要になります。ルーメンは初めは無菌状態ですが、生まれた直後から環境下にいる微生物が口から侵入していきます。摂取された穀類は、ルーメン内ですぐに微生物により発酵し、発酵により生産される酪酸、プロピオン酸が繊毛の成長に必要となります。

以上の事から、生まれてすぐの子牛には十分初乳を与え、生後1週間以内に濃厚飼料(モーレット等)の給与を開始し、ルーメンの発育を促し、健全な子牛の育成に努めましょう。

野菜



抑制かぼちゃ今後の管理



野菜

坂田 沙貴
上島農指導センター
080-1759-0091

1. 肥培管理

大玉果を生産するには約30枚程度葉数が必要となります。追肥は、着果節くらの雌花が開花直前に行い、2回目は着果確認後施用します。追肥位置は、株元及び着花節周辺に行います。

2. 交配

着果市は、1本仕立ての場合は10～15節に着果させます。下段着果は、小玉につながるの株元周辺の果実は必ず摘果しましょう。交配の時間は、授粉率を高めるために午前9時頃までに終えます。

3. 整枝・摘果

1番果がソフトボール程度に肥大したら、「1蔓1果」に摘果し、シートの設置を行います。また、日焼け防止の為、新聞紙や藁などで日よけをします。着果節位から本葉15～20枚以上を残し早めに摘芯します。また、着果節位以降の側枝は、原則取り除くが先端の2～3本は必ず残します。

4. 病害虫防除

農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数	対象害虫
トリガード液剤	1,000倍	収穫前日	3回	ハモグリバエ
カスケード乳剤	2,000倍	収穫前日	3回	ハモグリバエ
アフーム乳剤	2,000倍	収穫前日	2回	スリップス
モスピラン水溶剤	4,000倍	収穫前日	2回	アブラムシ
ウララDF	4,000倍	収穫7日前	2回	アブラムシ

病害

着果時期又は朝夕涼しくなってくるとうどんこ病の発生が見えはじめます。

農薬名	使用倍数	使用時期	使用回数	対象病害
トリフミン水和剤	3,000～5,000倍	収穫前日	5回	うどんこ病
イオウフロアブル	500倍	収穫前日	制限なし	うどんこ病
ダコニール1000	1,000倍	収穫7日前	3回	うどんこ病・べと病
Zポルダー	500倍	収穫前日	制限なし	べと病・疫病
ジマンダイセン水和剤	600倍	収穫21日前	2回	疫病・つる枯れ病・炭疽病

※うどんこ病が発生した場合は、薬量を多めにしてたっぷり洗い流すように散布してください。
※日中の高温時（30℃以上になる時）には薬剤の散布を避けてください。

5. 収穫

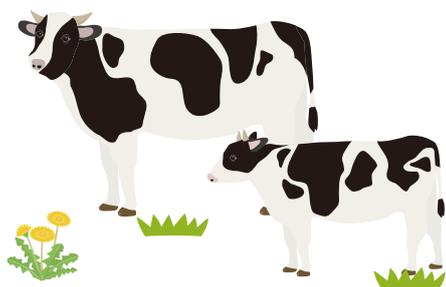
交配後、50～55日（積算温度1,000℃）程度を目安に収穫します。交配日が幅広い所については、分けて収穫を行います。収穫後、生り口を短く切り返し、1週間程度陰干し乾燥させた後、布でよく拭きあげます。



子牛セリ市開催

9月17日に天草家畜市場で子牛セリ市が開催されました。子牛のセリ市は年間を通して奇数月の17日に開催されています。JAあまくさ管内からは今回153頭（全体で310頭）の子牛がセリにかけられ、平均価格は633千円（全体平均は648千円）となり7月のセリと比較して約43千円（全体では34千円）下回りました。コロナ禍の影響による外食の抑制や、牛肉の需要低迷が続いており、価格となって表れているようです。

コロナに影響されない元の生活に戻ることはもちろん、牛肉等の消費回復のためにも一日も早くコロナ禍の終息を願うばかりです。



▲崎本組合長・藤本参事も応援に駆けつけ、JAあまくさの組合員全員のセリを見守りました。